

# 動員せられた幼稚園

倉 橋 惣 三

今日は國を擧げての總動員である。幼稚園も亦當然動員せられざるにない。幼稚園の動員はさういふことであらうか。幼稚園を閉鎖して工場にすることにない。保育を休止して保姆を機械の前に立たせることではない。時にそこまで逼迫した動員も世に無いではなからう。少くも、今日我國に於ける意味はそうではない。新體制はいふ。各々その職場に於て。幼稚園は愈々幼稚園として、保姆は益々保姆として、國の急務に動員せられるのである。

幼稚園は家庭教育を補ふことを、平生からの本務とする。その家庭が、平時とは異つて忙しい今日である。母が忙しいのである。平時に於ては、忙しい母が忙しかつた。その、謂はゞ個人的理由による母の多忙に、幼稚園が手傳ひをするのであつた。今日の母の忙しさは、それさ少しく、否大に、意味が異つてゐる。國のために、直接に、母が忙しいのである。

男は外に出て戦ふてゐる。銃を執つて國を護つてゐる。銃後は婦人の手に托せられざるを得ない。婦人自ら進んで之れを擔當せざるを得ない。それは、男の手の不足を、已むなく補ふさいつた消極的のこゝではない。婦人が引受けて働くことによつて、男をして後顧——國のこゝも、家のこゝも——の憂ひなく存分に戦はしめ、働かしめるための、積極的活動である。

國の立て前さしても、婦人には家を守つて貰ひたい。子女の保育に専念して貰ひたい。それが、何よりの御奉公として、母に委任せられてゐることである。しかし、今日は、平時の如く、それをのみ要求し、それのみ専らであらしめることが、國の大きな必要のために出来難い。召される男の後をうけて、母も、直接に國のこゝに召されるのである。

農村の母の手が今日、こんなに忙しさを劇増してゐることであらう。都市の母達も亦、家庭にあり得る時間が如何に、外の公用に振りむけられてゐることであらう。又、假りに直接公用さいはれないまでも、國を擧げての繁忙は、家の職業

そのものをも、止まるどころなく忙しくさせてゐるのである。

この時、その忙しい母を助けて、兎に角も何より大事な幼児の保育に、事を缺かしめず、事を誤らしめないやうにするのが、今日の幼稚園の、平時以上の責務である。近年幼稚園の入園志望幼児は、著しく増加してゐる。これは、各幼稚園がごこも充員してゐるごこに於て明かである。その理由として、幼児期保育の重要さが、廣く一般に徹底した爲であるごこも、是非擧げなければならぬ。しかも、今こゝで考へてゐる母の多忙が、その大きな理由の一つであるごこを思はせる。更にこれを、もう一つさかのぼつて言へば、國の忙しい爲に他ならない。

この母の多忙が原因となつて、乳幼児の上に、いろ／＼憂ふべき問題が起る。その著しく外に見えるのが保健問題である。そこで、之れに對して、國家は種々の對策を立てゝゐる。社會保健婦の普及もそれである。常設また季節的保育所の増設もそれである。いづれも極めて必要である。しかし、母の多忙が我子に及ぼす影響は、促進の上だけではない。寧ろもつこ深いごころ、もつこ機微の點で、性情の上に及ぼすごころが多い。それを吾々は最も憂ふのであるが、吾々以上に憂へてゐるのは、母その人であるに相違ない。勿論一般の母が、それを理論的に考へてゐる譯ではなく、意識のしかたさへも、極めて漠然たるものであらう。が、母の本能でそれを案じてゐる。今まで餘り氣をこめなかつた幼稚園さいふもののにその絶好の補助施設として、進んで入園せしめようとするのは、即ち此の心もちのあらはれでない誰れがいへよう。そこには、保健上の委託が勿論ある。しかしそれだけに止まらない。母がわが子に希ふものは、もつこ深いごころにある。少しでも心ある母は、わが子を健康にして貰ふだけでは、決して満足し盡すものではない。幼稚園を求むる心そこにあるのである。

○  
この今日の事態に即して、幼稚園がその責務を、充分自ら知らなければならぬごこはいふまでもない。知るのみでなく、實行實施してゆかなければならない。すなはち、平時の如く、幼児保育の原理から、いはゞ教育上の理想からその經營をするだけでなく、もつこ現實な任務を、よく思はなければならぬ。そのためには、所謂、保育そのごこを理想といつたごこにのみごらはれないで、今日の對策としての適切な順應も必要であらう。具體的にいへば、保育上から家庭に要求する通園心得にしても、母の忙しさをもつこにして考慮せられるべきであらう。殊に、保育時間の如き、忙しい母のために、

適切に延長せられる必要もあらう。斯うして、形の上で、保育所の經營に近づく譯である。幼稚園は幼稚園だし、高い理想をのみかざして、今日に奉仕する心がなかつたら、折角の社會の要求にそむくものである。

しかし亦、従来の保育所が、たゞ／＼忙しい家庭の缺陷に、兎に角も役に立てばいいといった風の、教育的積極性の極めて乏しい保育をしてゐたのと同じやうなものになつてはならない。それでは、幼稚園の幼稚園たるところを失ふのである。保育者としての理想さういふばかりでなく、前に述べた如き、母の心の底にある大切な要求を無視するのである。裏切るのである。

そこで、動員せられるさういふ意味に於て、今日の幼稚園には今日の幼稚園の問題が起つて来る。たゞありしがまゝでは、その動員に充分應じられない。さういつて、その本質を棄てゝは、幼稚園でなくなるさういふよりも、動員せられる所以に、眞に答へることが出来ない。理想と現實との、周到な考へあはせが必要になるのである。否、現實に即しての理想の實現が必要になるのである。

物資の缺乏さういふ。今日の事情からも、理想を現實に生かす工夫は、絶えず幼稚園の頭を働かせてゐる。それ以上、同じ工夫が、幼稚園中心と家庭中心との、理想と現實との間に必要になつてゐるのである。

少くも、今日の幼稚園は、保育理想や、保育趣味からのみ、保母さんに楽しみ行はれてゐるものではない。現實に對して、要求が切迫さに驅られて、或は、息せき切つて、その任にあたるさういつた情勢である。保母さんは、子どもが好き、保育が好きであることを第一要件とする。しかし、それだけで足りる今日ではない。こゝによつたら、そんな個人的心狀の如何に拘はらず、動員せられなければならないのである。

たゞ幸なことに、此の國家の動員に對して、平生から、ちやんこ備へてゐる幼稚園と保母がこの通り多くある。動員が多くなれば、尙ほ多くの豫備員が、若い女性の中に無限にひかへてゐる。そして、動員せられて、動員せられた覺悟の下に、しかも、動員せられたことを忘れる程、内から楽しみ進んで、此の任に當るのである。

見よ、今日の幼稚園の平時以上に充實してゐることを、潑刺さしてゐることを。動員せられた幼稚園は、正に斯くの如くである。